

65歳になったら、肺炎球菌ワクチン

肺炎球菌による重い肺炎などを防ぐワクチンです。定期接種として1回受けられます。2026年4月から、使うワクチンの種類が変わりました。



定期接種として受けられる時期（1回）

どんな病気を防ぐか

肺炎球菌は、のどや鼻の奥にることがある細菌です。肺炎のほか、血液に入って重い病気（敗血症など）を起こすことがあり、年齢が上がるほど重くなりやすい病気です。

誰が、いつ受けられるか

- ・ 65歳の方（65歳の1年間）
- ・ 60～64歳で、心臓・腎臓・呼吸器の機能に重い障害がある方、HIV による免疫の障害がある方
- ・ 接種は1回です。自治体から案内が届き、費用の一部が補助されます（金額は自治体で異なります）
- ・ 以前に肺炎にかかったことがある方も対象です

どんなワクチンか

2026年4月から、定期接種で使うワクチンは「20価結合型ワクチン（PCV20）」になりました。肺炎球菌には100種類以上の型があり、このワクチンはそのうち20種類に対応します。成人の重い肺炎球菌感染症の原因の約5～6割を占める型です。肩の筋肉に注射します。

接種のあとに出ることがある症状

注射したところの痛み（約6割の方）、筋肉痛、だるさ、頭痛が数日みられることがあります。多くは数日でおさまります。

こんなときは相談してください

- ・ 熱がある日は受けられません。治ってから受けてください
- ・ 血をさらさらにする薬を飲んでいる方、過去に予防接種で強いアレルギーが出た方は、受ける前に医師にお伝えください
- ・ 接種のあと、高い熱が続く、息が苦しい、全身にじんましんが出る、といったときは、接種した医療機関へご連絡ください

この紙は、担当医の説明を補うものです。診断や治療の指示ではありません。気になることは担当医にご相談ください。

出典: 厚生労働省「高齢者の肺炎球菌ワクチン」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/pneumococcus-senior/index.html

作成: マナヴィア（MANNAVIA、現役内科医）／最終確認: 2026/09/15／製薬会社の資金は受けていません／
mannavia.com/leaflets/pneumococcal-vaccine-65